

日台交流日録 (12)

〔平成18年3月1日〜4月28日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

3・1 六十年ぶりに旧居を訪問

日本時代の台東街長(町長)の遺族が、当時住んでいた木造宿舍が資料館として保存されたことに感動、六十年ぶりに現地を訪問。

3・2 高雄市でいけばな展

高雄市内で「小原流・池坊いけばな展」が市主催で。両派の台湾人会員の作品を展示。

3・3 歴史歪曲で台湾紙が怒りの論評

国共両党が日本軍の中国侵略の証拠とする「田中上奏文」の不存在を証明した『正論』誌の記事を受け、台湾紙自由時報は「国府は長期間、台湾人を騙していた」と論評。

3・4 日本語イベント大会

台北の東呉大学では交流協会との共催で、第二回全国大学生日本語イベント大会。日本語学科が設けられている十六校が参加。

3・5 高知県の知名度アップを

台湾ではまだ知名度の低い高知県は、台湾の新聞記者などを招いて県をアピール。

3・7 島田洋七さんの本が売り上げ一位

台北市内では、島田洋七さんの自伝小説『佐賀のがばいばあちゃん』が売り上げ一位。

3・9 麻生外相が台湾を高く評価

麻生太郎外相は参院予算委員会で、台湾が「民主主義が成熟し、自由主義経済が浸透し、法治国家であり、いろいろな意味で日本と価値観を共有している国だ」と評価した。

3・9 「国」発言は日台関係にメリット

許世楷駐日代表は、麻生外相が国会で台湾を「国」と発言した問題で、「現実には明らかに日台関係を処理しようとの姿勢」と評価。

3・10 阿波踊りで台湾人ツアーを歓迎

徳島空港に台湾人ツアー客を乗せたエバー航空のチャーター便が到着。地元の人々が阿波踊りで出迎えた。

3・11 日台親善の囲碁大会

日本アジア航空杯日台親善囲碁大会が都内の日本棋院で。

3・11 世界最大級の生産ライン

日経新聞によると、旭硝子は台湾に世界最大級の液晶ガラス基板ラインを新設し、早ければ年内に量産を始める。

3・12 ランタン祭りで踊りの交流

台南市のランタン祭りで、札幌のYOSA

KOISONランチーム二百人が出演。

3・13 伸び行くマンゴーの輸出量

蘇煥智台南県長によれば、昨年四八〇トンだった同県産マンゴーの対日輸出量は、今年は一五〇〇トンに及ぶ見通し。

3・17 三洋がテレビ事業で合弁会社

三洋電機は、台湾の大手電子機器メーカー、広達電機グループと合弁会社設立で合意と発表。両社の薄型テレビ事業を統合する。

3・19 大江議員「台湾の未来は台湾人が」

中国の反国家分裂法施行から一年。大江康弘参院議員は民進党主催の講演会で、「台湾の未来は台湾人が決めるべきだ」と強調。

3・21 WBC優勝を一面トップで

聯合晚报は、日本のWBC優勝を一面トップで。王貞治監督を「郷土の誇り」とも。

3・27 日本文化学が実習教室

中央通信社によると、台南の立德管理学院の観光管理学部は、日本文化を学ぶため実習教室を設置。畳、障子、襖も備わっている。

3・28 台湾海軍が演習で示した立場

日本の領海付近で台湾海軍が大規模演習を開始したことに関して自由時報は、「日米と安全保障に当たる立場の象徴」と報じた。

3・28 新潟観光でチャーター便

新潟県が誘致した台湾からのチャーター便が運航開始。台湾の旅行代理店が設定した県内周遊コースには佐渡金山や温泉地などが。

3・28 福井県が「修学旅行」で協定

福井県観光連盟は台湾国際教育旅行連盟と、修学旅行に関する協定を締結。台湾側はまず校長の視察団を派遣する意向を示した。

3・31 陳總統が日本の立場に感謝

陳水扁總統は亀井久興衆院議員と会見し、中国の反国家分裂法施行に日本が反対の立場を示したことなどに感謝の意を表した。

4・4 女性画家の生誕百年記念

日本時代以来、日本画を描き続けた女性画家、故陳進氏の生誕百年を記念する陳進展が都内で開幕。作品八十数点を展示。

4・5 W H O参加の支持訴え

呉樹民・台湾医界連盟基金合理事長ら代表団が都内で記者会見。日本政府が引続きWHOオペレーター参加を支持するよう訴えた。

4・6 栃木と福島が観光誘致使節団

下野新聞によると、福島空港、日光、那須のコースへの誘客を目指し、栃木、福島両県の経済団体が、台湾への交流使節団を編成。

4・7 石州瓦の輸出を倍増

山陰中央新報によると、鳥根県大田市の森崎窯業は本年度、成長が見込める台湾市場への石州瓦の輸出を倍増させる。

4・7 台湾で富山観光の情報紙

富山の観光情報を掲載した「いきいき富山新聞」の台湾版の現地での配布が始まった。

4・7 李氏の色紙が八田氏の母校へ

李登輝氏は嘉南大圳を建造した八田與一技師の母校、金沢市花園小に自筆の色紙を贈呈。文字は日本人の心を表現した「誠實自然」。市内の他の小中学校にも贈られた。

4・11 増える和歌山への修学旅行

紀伊民報によると、和歌山県を訪れる台湾の高校の修学旅行が増加中。今年度は二校が来県し、地元校との交流を行う予定。

4・9 日本の業者と「台湾米友の会」を

行政院農業委員会（農水省）は米の対日輸出を促進するため、「台湾米友の会」の結成を日本の業者と交渉中だと説明した。

4・10 大相撲の台湾巡業が決定

日本大相撲協会は、八月に台湾巡業を行うことを決定した。台湾での相撲人気は高い。

4・10 来日者数が過去最高

国際観光振興機構によると、昨年台湾から日本を訪れた旅客数は、前年比一八%増の百二十七万四千人で過去最高。国別では平成十一年以来、韓国に次ぐ第二位を維持。

4・12 物産の品定めで秋田県へ

台湾の老舗デパート「大統百貨」のバイヤーが、同店で十一月に開く秋田物産フェアの出展商品を選定するために秋田県へ。

4・13 交流深める姉妹高校

和歌山県田辺工業高校に、昨年姉妹校の提携を結んだ彰化師範大付属工業高校の生徒四十六人が訪問し、交流を深めた。

4・13 陳總統「日台関係は最良の時期」

陳水扁總統は都議会の自民党日台友好議員連盟のメンバーと会見、日台関係は最良の時期にあるとし、更なる関係強化を訴えた。

4・14 注目集める石原知事の動き

アジア大都市ネットワークに参加のため台北市を訪れた石原慎太郎都知事は、陳水扁總統、李登輝前總統とそれぞれ会見。親台派の大物の動きは、現地メディアの注目の的。

4・15 石原知事の台湾支持に謝意

蘇貞昌行政院長が石原都知事と会見。アジア大都市ネットワークの台北開催は石原氏の

力によるとして、台湾支持の姿勢に謝意。

4・17 「町作り」視察で高雄の町村長一行

日本の町作りの経験を学ぶため、楊秋興・
県長が率いる高雄県の町村長一行二十四人が
高山市を訪問し、歓迎を受けた。

4・18 和歌山県がチャーター便を出迎え

南紀白浜空港に台湾からチャーター便。和
歌山県は乗客に紀州手まりを贈呈。

4・18～19 プロ野球の「台湾応援デー」

西武球場では西武ソフトバンクの試合前
に台湾応援イベント。台湾の名勝紹介が行わ
れ、始球式は陳鴻基駐日副代表を務めた。

4・19 観光誘致で富山県知事と意見交換

富山県内の観光地を視察に訪れた台湾の航
空・旅行関係者が、同県が進める観光客の誘
致について石井隆一知事と意見交換。

4・19 産学官連携の実例を視察

日本の産学官連携の実例を学ぶため、亜東
関係協会科学技術交流委員会（团长・蕭万長
元行政院長）の一行が山形大工学部を視察。

4・20 台湾との国境交流で町の自立を

琉球新報によると、与那国町は国境を挟む
姉妹都市、花蓮市に交流事務所を設け、行政
間交流で町の活性化と自立を図る方針。

4・21 高雄と八王子が姉妹都市締結へ

葉菊蘭・高雄市長が黒須隆一・八王子市長
を訪問、十月での姉妹都市締結を決めた。

4・21 ハンスプリーの日本第一号店

六本木ヒルズに台湾の液晶テレビメーカ
ー、ハンスプリーの日本第一号店が来店。

4・21 人気の「台流」コンサート

台湾の人気歌手、王力宏さんが都内で公
演。三千人のファンを沸かせた。台湾では
「台流が日本に進軍」との報道も。

4・24 義勇隊碑撤去の取り消し訴え

台北県烏来郷の高砂義勇隊英霊記念碑の周
辺にある日本人奉納の碑を台北県政府が強制
撤去した問題で、地元住民が撤去命令の
取消しを求める請願を内政部に提出した。

4・26 常陸宮妃殿下が台湾ブースに

駐日大使夫人によるチャリティーバザーで
盧千恵・駐日代表夫人も台湾の特産ブースを
出展。常陸宮妃殿下もお立ち寄りに。

4・26 自民党に日台若手議論

自民党の日台若手議論が設立総会。国会議
員三十数名が出席。日本版「台湾関係法」の
制定を訴える声も。

4・26 出国先は日本が第二位

台湾の中央放送によると、一―三月の台湾

人の出国先では、香港の六十三万人に次ぎ、
日本の二十八万人が第二位。

4・26 陳唐山氏「日台は運命共同体」

陳唐山・総統府秘書長が早稲田大学で講
演。日台は中国の脅威に直面する運命共同体
であるとし、両国の協力を呼びかけた。

4・26 尖閣問題を避ければよい

李健全・農業委員会副委員長は国会で、
尖閣諸島の領土問題を避ければ、日本との漁
業権問題は解決しやすいとの見方を示した。

4・26 国際司法裁判所に台湾問題を

国際司法裁判所で裁判官を勤めた小田滋・
東北大名誉教授は台北での講演で、中国の圧
力が強まる中、台湾の国際法上の地位の問題
を、同裁判所に訴えることは可能と述べた。

4・27 愛媛大と守義大が協力協定

愛媛大学と高雄県の守義大学が協力協定を
締結。学術交流や交換留学を進める。

4・28 目標は日本人百二十五万人

台湾週報によると、昨年の台湾への日本人
渡航者は約百二十七千人で過去最高。台湾
政府の今年の目標数値は百二十五万人。

【永山英樹】